

松任駅南側文化施設⇔まっとうまちなか商店街回遊性創出事業

団体名●新ゼミナール／代表者名●新 広昭（副学長・教授）

はじめに

本事業は、白山市と本学との包括連携協定に基づいた事業の一環として実施しているものである。

新ゼミでは松任駅南側地区に立地する白山市の文化施設や「まっとうまちなか商店街」の店舗への来訪者の回遊性を作り出し、同地区の賑わい創出につながる活動を行ってきた。2025年度は「SDGs11 住み続けられるまちづくりを」を目標に、2024年10月12日にまっとうまちなか協同組合が実施する「つるべとられて秋祭り2025」の中でプレイスメイキング（居心地の良い場づくり）の考え方をベースにしたSDGsの普及啓発に取り組んだ。

活動内容

・SDGs スタンプラリーの実施

プレイスメイキングの8つの場要素の一つである「巡り場」創出を目的としたSDGs スタンプラリーを実施した。松任駅から徒歩15分～20分の範囲にある商店（9店舗）、文化施設（4施設）に設置されたシールを7枚以上集めた上で、アンケートに協力いただいた先着300人の方に商店街の各店舗の商品等を贈呈した。また、シールの剥離紙の散乱を減らすために、スマホで“シール”を獲得できるアプリを導入した。店舗、文化施設にはそれぞれの施設の営業・運営内容とSDGsとを紐づけしたポップを学生が作成・掲示し、参加者にSDGsを学んでもらった。



・フェアトレード活動の啓発

金沢のフェアトレードショップである「アジュール」の商品をスタンプラリーの景品の一つとし、贈呈する際にフェアトレードとSDGsの説明をすることにより啓発を行った。

パートナーシップによる活動

「秋祭り」は松任駅南側地区の大規模イベントということで、商店街の役員の方を実行委員長として、白山市の関係各課、白山商工会議所、松任高校、金沢星稷大学新ゼミ、井川ゼミ、同大学短期大学部辰巳ゼミからなる実行委員会が組織され、秋祭り当日までに4回の打ち合わせを行った。

成果、結果の考察

当日は晴天で、「秋祭り」には多くの人がつめかけ、スタンプラリー参加者も午後の早い段階で定員の300人に達し、盛況であった。アンケート調査の自由記述では、「SDGsについて理解が深まり、普段いかならないお店に入る機会となった。」「来たことがない場所に来て、親しみを持てた。」といった感想を多くいただき、巡り場創出やSDGsの普及啓発といった本活動の目標は一定程度達成できたのではないかと考えている。また、多様なステークホルダーとの関係性を構築できたことは学生のキャリア形成にとっても有益であった。

なお、本活動は、2026年2月7日に行われた環境省EPO 中部主催の「2025年度 SDGs 学生サミット」にて発表した。